

## 天然寺

目の前に立つ建物は、天然寺です。この地域独特の宗教遺産の最も優れた例の一つです。これは仏教のお寺ですが、神社と文字通り壁を隣り合わせにしているのです。入り口に鳥居の門があることから、右側の建物は神社だと分かります。寺は、かつては悟りを求める修行僧の修験場の中心地でした。修行僧は、神社の裏にある岩だらけの険しい丘の縦横に交差する山道を登ったりして修行を行っていました。

修行僧の厳しい修行法を少しでも体験したいという方には、寺の上の尾根につながる急な山道を登ることができます。修行僧がどんな体験をしていたかを垣間見たいと思ったら、尾根を右の方向に見上げてみてください。2つの岩山の山頂の間の狭い峡谷にかかる、小さな石橋のアーチが見えるはずです。もう1つのお勧めとして、神社正面の橋を渡り、川の真ん中にある大きな岩の表面に彫られた見事な磨崖仏をご覧ください。

## 修正鬼会（しゅじょうおにえ）

天然寺は、仏教と古代の山岳信仰の共存を伝える、魅力にあふれた珍しいお祭りの開催地でもあります。毎年2月に開催されるこの行事は、ほら貝の笛の呼び出しに応えた男衆が道の向かい側の川の冷水に入り身を清める儀式から始まります。このお祭りでは火が大きな役割を果たしており、火の点いた大松明を持った男衆が屋外で暴れまわり、その後行事は屋内に移動します。

儀式としての踊りや捧げ物の後、古代日本の鬼の面をつけた一組が、旋風を巻き起こしながら飛び跳ねる踊りに加わり、興奮する観衆の上で燃え上がる松明を振り回します。鬼は悪を追い払い、火花に触れた人に幸運をもたらすとして、歓迎されます。近くの歴史博物館でこの行事の活気あふれる雰囲気味わえる解説用ビデオの閲覧が可能ですので、こちらもどうぞご覧になってみてください。